

CONTENTS

ユニセフセミナー大阪 2024 講演録

2-3 国境なき医師団看護師 大谷敬子さん  
紛争地の子どもの命を守る

緑陰座談会

4-7 主役は子ども「世界を視野に  
未来へつなぐ」



栄養不良からの回復

急性栄養不良の診断から1ヵ月余り。マリアの虚ろな表情は、今では見る人を幸せにするほどの微笑みに変わった。  
(南スーダン)

©UNICEF/UN0152308/Gonzalez Farran

# 国境なき医師団 (MSF) 看護師 大谷敬子さん 紛争地の子どもたちの命を守る

2024年7月27日、大阪市中央公会堂で「ユニセフセミナー大阪2024」が開催されました。第1部は国境なき医師団看護師の大谷敬子さんを迎え、紛争の危険と隣り合わせの状況下で行う人道援助活動、とりわけ子どもたちの命をどう守るかについてお聞きしました。(近藤敦子)



おおたに けいこ  
大谷 敬子さん

国境なき医師団 (MSF) 看護師、医療チームリーダー  
1988年、関西医科大学付属看護専門学校第一看護学科卒業後、クリニック、病院勤務を経て、1999年よりMSFに参加し、以来20年以上、看護マネージャーや医療チームリーダーとしてアフリカや中東などで多くの活動に従事。2004年にはMSF日本事務局の人事部、2012年には同アソシエーションのコーディネーターとして勤務。現在、大阪精神医療センター・在宅医療室で勤務中。

## 国境なき医師団 (MSF)

世界75の国と地域で活動する(2022年実績)。紛争や自然災害、貧困などにより危機に瀕した人々に、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けている。活動実績が認められ、1999年にノーベル平和賞を受賞した。



65名の参加者が熱心に聴講した

私が赴任した南スーダンでの経験をお話します。南スーダンは2011年7月に独立を果たした、世界で一番新しい国です。20年にわたる内戦が終わり、独立した当初は自由と平和を喜び、希望に満ちていました。しかし、2013年12月、与党内の派閥抗争が激化し、内戦状態になりました。WHOによると、紛争により80万人以上の人々が避難を余儀なくされ、420万人が援助を必要とするとなりました。2015年に和平協定が結ばれていますが、翌年首都のジュバで再度武力紛争が起こります。当時、複数の場所で国境なき医師団が活動し、私は北部のユニティ州のマヨム郡で活動していました。

## 内戦の影響

子どもたちがどのような状況のなかで生活をしているのか、想像しながら聞いてください。内戦勃発で、人々は安全面だけでなく、衣食住など生きていくうえで必要な食料やライフラインへのアクセスが困難になります。衛生状態も悪化し、ウイルスや細菌原虫などあらゆる病原体からも攻撃される機会が増え、健康面で大きな障害が生じてしまいます。

政府の調査によると、この武力衝突により民家、水を汲む手押しポンプやマーケットなども被害に遭い、医療施設や学校などの建物は破壊され、医薬品や教材の略奪も報告されています。OCHA(国際連合人道問題調整事務所)によると、ユニティ州だけで57万人の避難民が報告されています。紛争によってインフレが起こり、物価は3倍の値段になり、翌年の農作物のために備蓄していた種も食料として消費されています。

国境なき医師団は2015年1月にこの地を訪れ、調査をしています。当時のレポートによると、保健センターは劣悪な状態で、医療の管理はされておらず、水はなく、医薬品は不足し、予防接種は2年間実施されていないとありました。2カ月間の環境整備と緊急時の避難オプションの確保など体制を整えたのち、診療開始は同年の5月からでした。

私が着いたのは診療が始まってから1年が経過しており、治安状態も比較的安定していました。ここでは10万人の住民を対象にプライマリーヘルスケアを提供していました。活動目的は質の高い医療の提供により、この地域の死亡と罹患率を減らすということで、医療は無料で提供していました。

## マヨムでの医療活動の課題

### 1 専門の資格を持ったスタッフが少ない

マヨムの保健センターには、多いときで1日260人の患者さんが来ていました。外来患者の24%は5歳未満の子どもでした。この地域では人口の約18%が5歳未満と推定されていたので、大人より子どものほうが多く診療所に来ていたことになります。また緊急入院する子どもの割合は57%で、大人の場合は外来患者の1.6%が入院するのに対して、5歳未満は6.6%であることから、子どもは重症になってから来ているか、大人より重症化しやすいことが考えられます。

## 2 予防可能な病気で命の危機に

私が活動した5カ月の間に30名の患者さんが亡くなり、そのうち半数が5歳未満児でした。5歳未満児の主な死因は麻疹、下痢、マラリアなどで、衛生状態に問題がなく、医療へのアクセスが良ければ十分に治療可能な病気でした。下痢で死亡したのは生まれて1年にも満たない子どもでした。脱水症状がひどく、輸液するための血管確保もできない。仕方なく骨髄内輸液、骨からの点滴をしたこともありました。

死因で多かった麻疹や栄養失調は緊急時にとくに注意が必要で、子どもにとって死亡率が高くなる病気でもあります。

## 3 麻疹の流行

日本で麻疹はそれほど深刻な病気とは思われていませんが、栄養状態が悪く、不衛生な密集した環境で生活している避難民にとっては致死率が20%を超える恐ろしい病気です。この病気は予防接種によって簡単に予防できます。集団免疫を獲得するための接種率は95%以上必要で、ワクチンの接種率が十分でない地域は流行のリスクが高くなります。

2015年に、予防接種キャンペーンをマヨムで一度行いました。当時の接種率は80%程度。感染は1月ごろから徐々に始まり、2月下旬に食料配給があったときに大勢の人が集まったその後から、徐々に患者さんが増え始めました。そこで3月に麻疹ワクチンのキャンペーンが実施され、しばらくして患者数が徐々に少なくなってきました。このキャンペーンではユニセフがワクチンを配給して、国境なき医師団がワクチンや物品を管理し、セーブ・ザ・チルドレンがキャンペーンを実施しました。

## 4 栄養失調

予防可能な疾患で命の危機になるかどうかは、栄養状態に左右されます。マヨム保健センターでは、すべての子どもにMUACテープで栄養状態の調査をしていました。足外部の浮腫とMUACテープで重症度を測ります。

住民は感染症を起こしやすい状況のなかで暮らしていました。栄養状態が悪くなると免疫機能が落ち、感染しやすくなります。感染症にかかると今度は食欲が落ちて、栄養状態がさらに悪くなる。栄養失調と感染症の悪循環を繰り返すうちに、最後は死に至ります。麻疹は悪循環の典型的な例になります。さらに悪いことに、重度の栄養失調になると普段見られる感染症の症状である発熱を認めなくなるので、医療従事者でも感染症の診断が難しくなります。とりわけ5歳未満児の栄養失調は深刻な病気につながりやすく、早期に治療する必要があります。

2016年3月から半年間、マヨム保健センターでは500人



南スーダンのMSF保健センター ©MSF

近い子どもが重度の栄養失調と診断され、治療食を用いた治療を行いました。プランピーナッツ（RUTF）が2001年ころから治療に用いられるようになり、毎日、治療に通わなくてもよくなり、家族の負担が減りました。しかし家庭での治療には限界があり、生活が優先されるため、定期的に診察に来なくなったり、その後の状態が把握できない子どもがたくさんいました。

## 紛争がもたらす子どもへの影響

紛争に巻き込まれた子どもたちを保護するため、児童権利宣言は1959年に国連総会で採択されています。ここには児童の保護について、「自由と尊厳の下で健全に成長できる機会と利益を与えられなければいけない」とあるのですが、私が活動してきた地域では置き去りにされているように感じることもありました。紛争で親を失い、生きるための選択肢として少年兵になる子どもの姿も見かけました。「子どもは怖さを知らないから、戦闘で最前線に立たされるんだ」と現地スタッフから聞いた言葉が忘れられません。活動中には医療だけで解決できない問題もたくさんありました。親を亡くし、孤児となった子どもには、空腹をいやすためのプランピーナッツより安心して暮らせる家庭が必要です。

紛争の危険と隣り合わせの状況で行う活動は、命を救う人道援助活動になります。人道援助を行うにあたり、紛争下では武器を持たない民間人を守ることを目的として国際人道法が適用されています。しかし、南スーダンでは民間やマーケット、医療施設や教育現場も攻撃を受けていました。

今、ガザやスーダンでは、医療援助など人道支援も入ることが困難な状況になり、そこで生活する住民にはますます厳しい状況になっています。国境なき医師団はそうした現場にも向かい、今も活動を続けています。

**第二部** 会場から寄せられた質問に加え、3名のボランティアが代表して感想と質問を述べ、大谷さんと意見を交わした。その一部を紹介します。

**Q：**医療従事者でない私たちができることはありますか？

**A：**①知る、広める、②寄付する、③参加する。世界の人道危機に関心を持ち続けるのは大切なことです。多くの人に知識が蓄積されることによって、より現場に即した援助につながる可能性がある。

**Q：**何でモチベーションを維持しますか？

**A：**感謝の言葉、人が行けないところで活動できるということ、チームの間との交流など。

**Q：**苦労したことは？

**A：**仕事面では、①予測できないことに直面する。不測の事態に対応できる柔軟性が必要。②チーム内ミーティングの重さ。

生活面では、南スーダンの雨期は虫が大発生。蚊帳でも防げない。夜間に電気をつけないように工夫し生活した。それを愚痴る人は誰一人いなかった。現地住民はもっと大変だと知っているから。